

清流のほとり



令和7年5月1日(木)発行 園長 津田 将美 寄 松田

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

夢の国へ

園舎の1階から2階への階段に、年長さん制作の宇宙すべり台が誕生しました。その脇を通って、教室に向かうと宇宙空間が迎え入れてくれました。まるで、夢の国です。

年少さんを生き生きと案内していた年長さんが、園長を見つけて声をかけてくれました。

「園長先生、宇宙に行こう!!」

「ええっ、こわそうだからいやだよ。」

「だいじょうぶ、一緒について行ってあげるから。」

「そ、そう…」

そこから、宇宙の旅が始まりました。園長がこわがっていると、年少さんもやさしく声をかけてくれました。

「だいじょうぶ、こわくないよ。」

年長さん、年少さんに付き添われて宇宙を旅し、無事帰還することができました。

「やっぱり、楽しかったね。」

「そうでしょ。今度はうさぎ(年中)組さんと呼ぶんだよ。」

その子は、きらきらとした目で、そう教えてくれました。

帰り道の階段は滑り台。年少さんが楽しそうに滑り降りていきます。脇を通ろうとすると、また年長さんに誘われました。

「園長先生も、すべってみな。」

「だめだよ、こわれちゃうよ。」

担任に確認すると、年齢制限、体重制限はないそうです。せっかくのお誘いなので、勇気を出して滑ってみることにしました。結果は…、右の4コマの通りです。

年長さんの目の輝きは、一番上の学年になったんだという自覚と周りの人に喜んでほしい、幸せな気持ちになってほしいという願いからくるものです。きっと生き甲斐とかやり甲斐というものは、そういうところから始まるんだろうと思います。

人に何かをしてもらうというのは嬉しいことです。そのことに対する感謝の気持ちを積み上げていけば、周りの人に対する「あこがれ」が生まれます。そして自分もそうありたいという願いも生まれてきます。

幼稚園の生活の中で、そういう心を少しずつ積み上げていきます。そして、人の喜びを自分の喜びに感じられるような感性が育っていきます。

誰かのために、何かをしたい。そんなやさしいエネルギーを子どもたちが幼稚園全体に醸し出してきています。

大人も見習って、素敵な生き方をしていきたいです。

